

川甜瓜風味爲勝、又和州南都梵天瓜、泉州界臚松瓜亦在京師、

〔新猿樂記〕四郎君受領郎等刺史執鞭之圖也、略○中得萬民追從、宅常擔集諸國土產貯甚豐也、所謂中

略  
大和瓜

〔異制庭訓往來〕菓子者可爲荔枝龍眼生栗候也、夏者唐瓜、大和瓜、白瓜、杏梅、李、桃、水茄子、茨菱也、

〔國花萬葉記三〕大和國中名物之出所

梵天瓜外白色  
内黄色

〔浪花の風〕眞桑瓜もあれども、大にして銀まくはと呼ぶものにて、味ひよろしからず、江戸の眞桑に類せし黄色なるもの、偶には見ることあれども稀なり、鳴子瓜の如きものは、絶てあることなし、

〔張州府志二十四〕土產上條瓜、出上條村、至今年供御爲尾州名物、里老傳曰、慶長十四年酉夏、

東照神祖命令獻之時、寺西藤左衛門爲奉行、其吏竹腰又兵衛、高麗又五郎指揮之、如濃州獻眞桑瓜

例、以甜瓜十五顆爲一筐、以四筐爲一擔、凡十擔獻之、駿府、其後每年以爲式、賜證文二十通、元和四年

午夏、藤田民部爲奉行、其吏日比十右衛門指揮之、先以甜瓜二擔獻之、江戸、六月十五日大雨水没田

園、瓜悉潰敗、故以證文十八通返上、爾後不賜證文、從瓜有無、驛遞獻之、每獻以瓜十顆、充米一升、且復

其租寬永三年子夏、原田右衛門再爲奉行、然以上條村爲劇邑、不敢蒞百姓困窮、請吏翌五年原田諭

里人云、移租仍舊、以瓜充米、及雇役送筐一切罷之、里人從之、其后獻瓜之事、或有或無、後年但以瓜進

官府驛遞獻之、東都但賜瓜價不復租稅、

〔國花萬葉記八〕駿河國中名物出所之部

府中眞瓜

〔續江戸砂子〕江府名產、并近在近國